戸塚隆将著「世界のエリートはなぜ、『この基本』を大事にするのか？」朝日新聞出版、2013 年 8 月 30 日刊を読む

世界のエリートはなぜ、『この基本』を大事にするのか？

１．英語は「ペラペラ」よりも論理コミュニケーション力

（１）英語学習の売り文句で、「いつのまにか英語がペラペラに」のようなものを頻繁に目にします。この場合の「ペラペラ」とは、流れるように英語が口からでてくるイングリッシュスピーカーのことです。これは日本人の英語に対する会話偏重、発音偏重、ネイティブ偏重意識が強い表れではないでしょうか。

ゴールドマンやマッキンゼーで評価される日本人プロフェッショナルは皆英語を日常的に使いこなしますが、多くの人が「ペラペラ」ではありません。

（２）プロフェッショナルの英語３つの特徴

使いこなすというよりは、英語を使えなければ仕事ができない職種です。まさに英語は必須のスキルです。ネイティブスピーカーを除くと、グローバル・ファームの日本人プロフェッショナルの英語には３つの特徴があります。

①日本語アクセントが強い

日本語訛(なま)りが抜けないのは、ある一定の年齢になってから英語を身に着けたためです。ある部分しょうがないといえます。しかし、英語の発音として決定的に重要な音の区別、例えば、Ｌ、Ｒといった音を正確に発音することができます。

②読む、書く、聴く、話す、の4スキルの基礎がしっかりしている

日常業務では、社内の公式ドキュメントが英語のため、常に英文を正確かつ迅速に読む力が求められます。日常的に英文でのメールのやりとりがあり、資料を英語で作成します。つまり、高度な読解力と作文力が求められます。

海外オフィスとの電話会議は日常的で、世界中に散らばる海外プロフェッショナルの強く訛った英語を正確に聞き取り、内容を深く理解する必要があります。そして自分の考えを論理的に伝えるオーラルコミュニケーション力が必要です。

つまり、英会話力が突出しているのではなく、総合的に英語力の基礎がしっかりしているということです。

③論理的かつ堂々とコミュニケートする

自分の英語力に自信がなく躊躇(ちゅうちょ)している余裕はありません。日本語アクセントが残るものの、しっかりとした文法で論理的に、堂々と発信することが求められます。グローバルに評価されるプロフェッショナルは、論理的かつ堂々と自己主張するスキルが高いです。

（３）ビジネスの場で英語を使いこなすためには、「ペラペラ」の呪縛から解放されなければなりません。発音や会話への意識が強すぎると、堂々と論理的に自己主張する前に日本語アクセントが気になってしまいます。

（４）さらには、**英語の総合的な基礎力向上を目指す学習**が疎(おろそ)かになる傾向があります。ビジネス英語とは何か、を再定義することが、英語力アップの秘訣(ひけつ)といえるでしょう。**「ペラペラ」意識から解放されること**が鍵です。

P184 ～ 186

２．エレベーターで他人を先に降ろす余裕を持つ

（１）①心に余裕があると、行動にも余裕が生まれます。

②行動に余裕があれば、心にも余裕が生み出されます。

③これは、ポジティブ思考が良い結果を生み出し、良い結果がさらにポジティブ思考を生み出すサイクルに似ています。まずは心の持ち方や思考を変え、行動を変えていく。鶏が先か、卵が先かの議論では、まずできることから取り組んでみることです。動き出せば、あとは好循環が生まれるものです。

④私は、心に余裕を持つ意識を持ち続けるために、日頃「アフターユー」を大事にしています。単純に言えば、ドアを開けて建物に入る時、狭い通路を歩く時、なるべく相手に道を譲る、という心がけです。

⑤相手に譲る気持ちは、相手に必ず通じます。譲られた相手は、こちらに感謝をしてくれます。そして次に、相手は自分に対してお返しに、道を譲ってくれる、お互いが相手を思う気持ちは必ず伝播（でんぱ）していくため、人間関係も良好なサイクルに入ります。

（２）ハーバードの「アフターユー」精神

①ゴールドマン時代、忘れられない小さな出来事がありました。

②ニューヨークの研修に参加している時のことです。世界中から集まった新人同期が一堂に会し、1 か月間タフなトレーニングを受けました。会社主催の懇親パーティーがあった夜のことでした。一緒に出席した同期と共に、ホテルに帰りました。立食パーティーで少々立ち疲れし、お酒もまわっていた我々がエレベーターに乗り込んだときのことです。

③私と同期の部屋は別の階でした。無意識に 2 人は、相手の降りる階のボタンを同時に押し合いました。私は同期の降りる 7 階を、同期は私の降りる 13 階を押しました。お互いが相手を優先しようとする無意識の行動が何とも嬉（うれ）しく感じました。そして、譲り合うとはいいものだと改めて実感しました。

④ハーバードの学生も、皆びっくりするほどアフターユーが板についています。見事なまでに自然体で相手に先を譲ります。

⑤ブッフェ形式の食堂でパンやスープを盛り付ける時、寮の扉をあける時、クラスルームの席から出入りする時、売店でレジに並ぶ時、駐車場に続くエレベーターですれ違う時。それは、男性が女性に対してのみ譲るレディーファーストの時だけではありません。女性同士、男性同士、異性間においても頻繁に見られます。

⑥ハーバードの学生にアフターユーの精神が徹底されているのは、幼少の頃から譲り合いの精神を教え込まれているからです。競争意識の激しいアメリカ社会だからこそ、競争に一定のルールが設けられているのだと、私は解釈しています。

⑦民族、人種、出身地、母国語などが様々な社会においては、同一民族間の暗黙の常識というものがありません。だからこそ、明白なわかりやすいルールが生まれます。

⑧日本人には、最初は暗黙のルールに思えるアフターユーの精神も、実は、アメリカのエリート社会では明白化しているのです。

⑨譲り合いで一つ気をつけたいことがあります。アフターユーは、男性・女性の区別なく、実践することです。もし、男性と女性が譲り合うようなことがあった場合にどうするか。それはもちろん、男性が女性に譲るべきです。女性も、そこは素直に譲られる方がスマートですね。

３.「すみません」よりも「ありがとう」を伝える

（１）①人に素直に「ありがとう」と言える人を見ると素敵だな、と感じます。感謝の気持ちを自然体で表すためには、常に人に対して公平で、人の好意をオープンに受け入れる気持ちがなければできないと思うからです。

②そのためか感謝を表現できる人には、どこか秘めた自信が感じられます。一方で、いつも謝罪ばかりしている人を見ると、悲しい気持ちになります。どことなく卑屈な印象を受け、自信のなさが感じられるからです。

（２）「すみません」の内訳

①「すみません」はとても便利な言葉ですが、私はなるべく使わないようにしています。

②「すみません」には、「ありがとう」という感謝の意味と「ごめんなさい」という謝罪の意味の両方があります。どちらともいえない、あるいはどちらも含んでいる、そのニュアンスが、「すみません」の便利なところです。

③一方で、不便なところは、感謝の気持ちを述べるには、不十分で伝わりきりません。また、謝罪の気持ちを伝えたくても、その中途半端さから、心からの謝罪に聞えないこともあります。

④私は、「すみません」という言葉が口から出てきそうな時には、一瞬だけ間をおくようにしています。そして、感謝を述べるのであれば、「ありがとうございます」を選ぶようにします。逆に、謝罪を述べる時は、「申し訳ありません」と丁寧に伝えるようにしています。

⑤「申し訳ありません」は、英語で言えば“I'm　sorry”です。英語にすると、軽々しく謝ってばかりいる姿は変に感じますね。謝る度に、自分の言動を改めようという気が湧いてきます。

⑥感覚的には、我々が日頃口にする「すみません」のうち、8 割～ 9 割は感謝が占め、謝罪の意味合いは 2 割に満たないように思います。

（３）**「サンキューが９割」を心がける**

①ハーバードの学生は、「ありがとう」を頻繁に口にします。“Thank you”や“Thanks”。時には“I appreciate it”と丁寧な表現も口にします。

②一方で、“Excuse me”“I'm sorry”は、本当に謝罪が必要な時だけです。アメリカ人は、なかなか謝罪を口にしないと言われますが、ハーバードの学生は皆、謝るべき時には素直に謝ります。素直に謝れることも自信の表れなのでしょう。

③日本語では「ありがとう」と口にするのは、照れ臭いこともあります。それでも、自然体で「ありがとう」と言いたいものです。

④自分も、常にそうできているわけではありません。サンキューが 9 割に対して、エクスキューズミーが 1 割。9 対 1 のルールを心がけています。是非、皆さんも試してみてください。

P51 ～ 53

［コメント］

「ゴールドマン」は世界最強といわれる投資銀行ゴールドマン・サックスの略。「マッキンゼー」は世界最高のコンサルティング会社。ここでいう「ハーバード」とは世界最上級といわれるビジネススクール。著者の戸塚隆将氏がこれらで学んだ一生涯成長し続けるための仕事のコツを 48 にまとめた本書は、ビジネスマンを目指す人だけではなく、よい生き方を目指す人々にとっての生き方のテキスト。参考になる内容ばかりです。是非、御一読を。

－ 2013 年 8 月 30 日林　明夫記－